早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	池本　悟　（ いけもと さとる ）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	人間科学研究科修士課程１年
発表年月 または事業開催年月	2024　年　8　月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 65 回日本社会医学会総会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	池本　悟
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	データ連携・利活用による骨折予防に向けた取り組み

発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）

【背景・目的】小規模自治体の多くは，手元にデータはあるもののデータ分析を行うマンパワーの不足，ビッグデータを含むデータ分析の手法や結果の利活用に関する知見や経験が不足している．埼玉県皆野町では，産官学連携でレセプトデータを中心にした自治体が保有するデータの突合および分析を行い，その結果に基づいた地域課題の解決に取り組んでいる．本研究では，特に骨折に着目し，その特徴について明らかにすることを目的とした．

【対象・方法】平成 28 年から令和 4 年の 7 年分のレセプト管理システム（医科・DPC・歯科・調剤）23 万件などのデータ間突合を行った．データベースの主要な情報は，傷病情報，診療情報，医薬品情報，調剤情報，健診受診状況，要介護認定状況，介護予防事業参加状況とした．このうち，7 年間で骨折発生件数 1,275 人を分析の対象とし，年齢分布，性別部位別発生数，2 次骨折件数，入院回数・期間，薬剤使用について分析を行った．

【結果】2 年連続で骨折したものは 184 人（14.4%）であった．年齢分布では 65 歳から増え始め 80 歳代が最も多かった．部位別では腰椎圧迫骨折が 285 人でもっと多く，男性が 92 人，女性が 193 人であった．医療資源を最も投入した傷病では，大腿部頚部骨折が最も多かった．最初の骨折として圧迫骨折になりやすく，特に腰椎圧迫骨折が多い傾向がみられた．薬剤使用と 2 次骨折との関連でみると，活性型ビタミン D3 剤の服用非服用と 1 次骨折と 2 次骨折との間に統計学的に有意な関連がみられた．

【考察】　転倒などを契機に骨折してしまう高齢者は多く，初回骨折が二次骨折のリスク因子要因となることやその後の介護度が高くなること，また，自治体にとっては関連する医療介護費の抑制が課題となっている．今回の分析から，大腿骨骨折に対する対策が必要であることが明らかとなった．今回薬剤使用との関連については，服薬管理も含めた詳細な検討が求められる．また，今回，産官学連携の取り組みによって，データ分析・評価可能な職員数が増加しており，庁内の DX 化が実質的に進んでいることは高く評価できる．

※無断転載禁止